プリンセス
小公女セーラ

第37話

『屋根裏は大混乱』

AR台本

企画
制作 日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第三十七話　『屋根裏は大混乱』

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
登　場　人　物
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

セーラ…………島本須美
ベッキー…………鈴木みえ
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
モーリー…………向殿あさみ
ジェームス…………郷里大輔
ラムダス…………飯塚はるみ
ラビニア…………山田栄子

ジェシー…………

ガートルート…………佐々木るん

ロッティ…………渡辺菜生子

アーメンガード…………八百板万紀

ピーター…………坂本千夏

ジム…………

花屋…………

シーザー…………

女生徒達（ガヤ）…………

カメラ	画面		音声
1	朝　ミンチン女学院 裏屋根　雀が騒いでいる		S・E　（教会の鐘の音） （チチチ　チチチ……）
2	たわむれる雀たち		
3	ベッドに寝ているセーラとベッキー　セーラ、はっとして目をさまし		セーラ　「ハッ！」
	A・C		
4	半身を起こすセーラ ベッキーをゆする ベッキー、びくっと起き上り		セーラ　「いけない、もう起きる時間なんだわ、ベッキー、ベッキー……！」 ベッキー「は、はい、ただいま……」
5	起きあがった二人 ベッキー、セーラに気がつく ベッキー、ハッとしてあたりを見まわす		ベッキー「あ、おじょうさま……一体ここは…？」 セーラ「私の部屋よ」 ベッキー「えっ……」
6	テーブルクロスの上　銀の燭台やカップ、ナイフやフォーク		

7	色々な器、サンドイッチの残りもある		
8	暖炉の上にもろうそく　暖炉の中の火は消えている　手前二人なめてPAN・DOWN		
9	ベッキー茫然と　頬をつねる セーラ首をふる		ベッキー「私……まだ夢を見てるんでしょうか…」 セーラ「いいえ、夢ではないのよ、ベッキー。 ～ 昨夜、この通り魔法のごちそうが届いて、私たちそれを食べて、一緒にこの毛布で眠ったのよ」
10	ベッドから立つセーラ ベッキーうれしそうにベッドを出る　ベッキー、テーブルに近づく		ベッキー「ひゃあ……想い出しましたですぅ」 セーラ「ね？　魔法はまだ消えなかったのよ」
11	ベッキー少し不安な顔になる		ベッキ「ほんとに……でも急に消えたりしないでしょうか……私が手を出すと……パッと……」
12	サンドイッチに近づく手		

13	ベッキーの不安な表情		
14	ベッキーの手　パッと早い動きでサンドイッチをつまむ		
15	ベッキー、サンドイッチをまじまじと見ながら パッと口の中へ押し込みムシャムシャと食べる　むせるベッキー		ベッキー「あ、消えません、おじょうさま、でも食べようとしたとたんに……パッと……」 ベッキー「ゴホ、ゴホ、ゴホ消えません、おじょうさま！」
16	目をクリクリして見るセーラ		セーラ「まあー、ベッキーたら……」
17	二人顔見合せて笑う　笑いながらテーブルを見る二人		二人「フフ……　フフ……　フフフフ……フ……」
18	二人笑い合いテーブルを見ていたが ベッキー、ニコニコしながらもひとつサンドイッチをつまむと急いでドアの方へ行くベッキー		二人「フフフ……」 セーラ「でも、もう下へ行く時間よ」 ベッキー「はい、おじょうさま、すぐ着がえて参りますから……」
19	微笑んで見送るセーラ		セーラ「フフ……」

			S・E（バタン）
20	ベッキーの部屋　入って来るベッキー　持ってたサンドイッチを口に入れる		
21	ベッキー、ムシャムシャ食べる　満足気に頷く　着がえにかかる		ベッキー「やっぱり夢じゃないんだわ」
22	着がえ終るセーラ　振り向くセーラ		S・E（ネズミの鳴声　チュー　チュー　チュー）
23	壁穴でメルの一家が鳴いている　チビが手前に出てくる		
24	セーラ、ネズミ達を見て		セーラ「まあ……あなたたちのことをすっかり忘れていたわ、ごめんなさい」
25	残りのサンドイッチを取るセーラ		
26	メル達の方へ歩くセーラ　メル達セーラの前に出てくる		

27	サンドイッチにかじりつくネズミたち		
28	ニコニコ見ているセーラ		
29	チビが手前に来て飛びつきかじる　手前に倒れるサンドイッチつぶされてもがくチビ　つづいて次のサンドが覆うように倒れる　もがくチビ、かまわずに食べる一家		
30	くすんと笑うセーラ ドアの方を見る 扉開く音		セーラ「クスッ」 S・E（コン　コン　コン） S・E（ガチャ）
31	ドアからのぞくベッキー 立ってベッキーの方へ歩くセーラ		ベッキー「お待たせしました、おじょうさま」 セーラ「あ、今いくわ」 ベッキー「でも、おじょうさま……
32	ベッキー室内を指して セーラ微笑んで		〜 この魔法消えないとようございますねえ」 セーラ「大丈夫よ、ベッキー、きっと消えな

	セーラ、ベッキーをうながす 外へ出て行く二人　ドア閉まる	いと思うわ、さ、いかなくては」 ベッキー「はい、おじょうさま」
33	ドア閉まる音 同時に天窓が開き姿を現わすラ ムダス　ヒラリと飛び降りる 天窓に合図するラムダス　続い て飛び降りてくる召使い　ラム ダス燭台をとる	S・E　（バタン） ラムダス「は――ッ!」
34	召使いに指示するラムダス	
35	暖炉　穴をもって来て傍にお き片づけ始める召使い	
36	ラムダス燭台を頭上に差し上げ る　天窓で受けとる老召使いが 見える　カゴを二つ渡す老僕	
37	ラムダス銀の食器をまとめ出す 暖老をかたづけている召使い	
38	台所　じゃがいもの皮をむくべ	

	ッキーの手	
39	皮をむくベッキー　向こう、火の加減を見ているセーラ	
40	ドア開いて入って来るジェームスとモーリー、ギョッとなる	ジェームス・モーリー「ウッ！」
41	二人明るい顔で挨拶する	ベッキー「あっ、お早ようございます！」 セーラ　「お早ようございます。モーリーさんにジェームスさん」
42	モーリー、ジェームス唖然と顔を見合わせると手前へ来る	モーリー・ジェームス「うん?!」
43	セーラの方へ近づくモーリー、ジェームス　しげしげとセーラを見るジェームス、モーリー、セーラ元気良く答える	ジェームス「こりゃ驚いた……お前病気の方はもう治ったのか？」 セーラ　「はい、熱も下がりましたし、もうこの通り元気になりました」
44	また顔を見合わせるモーリー、ジェームスお互いに首をひねりセーラの方をけげんな面持ちで	二　人　「うんー?!」

No.	画面		台詞
	見つめる二人　（実にいやらしい目つき）		
45	二人を呆然と見上げるセーラ		
46	モーリーうかがい見るように首をのばして　ベッキーが乗り出して来て　ジロリとベッキーを見るモーリー		モーリー「えへへ……病み上がりで、おまけに朝ごはん前だってのによくまあそんなに元気がでるもんだねえ」 ベッキー「あの、それはですね……」
47	前に出るセーラ はっとなり身を引くセーラ		セーラ　「ベッキー　ハッ！」
48	疑わしい目付きで前に出るモーリー		
49	ジーと見つめるモーリー モーリーいきなりセーラの腕を摑んで　セーラ、モーリーに引きたてられる		モーリー「うーん、フン判ったよ……！　何を隠してるのか、さ、おいで！」 セーラ　「あ、モーリーさん！」
50	「キッ」となってセーラを睨みぐいと引きたてるモーリー		

51	ベッキー、セーラの後を追う モーリー、ベッキーのえり首を摑む　そのまま投げとばす		ベッキー「お、おじょうさま！」 ジェームス「お前はここで働くんだよ！」
52	テーブルに飛ばされるベッキー 転がるじゃがいも　不安に振り向くベッキー		
53A	三階廊下　ミンチン驚いた様子で		ミンチン「なんですって？　……セーラは仮病だったって云うんですか」
53B	見上げるセーラ		
53C	セーラなめのモーリー、ミンチン　モーリー説明する		モーリー「そうとしか思えませんよ、院長先生……きっとベッキーと一緒に屋根裏で盗み喰いを続けていたんでございますよ！」
54	セーラ説明する ミンチン、モーリーに告げて ミンチン、スタスタ手前へ歩い		セーラ「ち、ちがうんです。私、熱が引いて……」 ～ ミンチン「モーリー、調べてみる必要があります。さ、来るんです！」

	て来る		
55	モーリー、セーラ見ている モーリー、セーラの背中を押す		モーリー「さ、行くんだよ！」
56	屋根裏への階段の方へ歩くミンチン、セーラ、モーリー、アメリア自室の前		
57	アメリア茫然として見送る、が、急いで追う		
58	屋根裏部屋　暖炉の上の燭台をとる召使い		
59	床のジュータンをまるめるラムダス　召使い窓の老人に渡す ハッとして振り向くラムダス		ラムダス「ハッ！」
60	低く叫ぶ		ラムダス「急げ！」
61	階段登るミンチンの足 FOLLOW↖		

No.	画面		音
62	登る怒い顔のミンチン FOLLOW↖		
63	モーリーの手に背を押されながら登るセーラ　不安な表情 FOLLOW↖		
64	現われるミンチンたち		S・E　（足音）
65	ミンチン前へ来る		
66	セーラなめ　ミンチン、ドアを開ける		
67	絶望的に立ち尽すセーラ		セーラ　「ハァーッ！」
68	窓に飛びつくラムダス　天窓一瞬ラムダスの姿が消え音もなく閉ざされる窓		
69	ミンチン一、二歩入ってくると部屋の中を見渡す　セーラ、モーリーも入って来る		

70	モーリー見る		
71	セーラ茫然と見る		セーラ「はあー」
72	ベッドにあの新しい毛布はない →PAN テーブルはむき出し でテーブル掛けも食器もない ジュータンもない　暖炉の灰が 片付けられている		
73	唖然としているモーリーとミン チン　ポカンとしているセーラ 唇をかみしめ眺め回していたミ ンチン、ジロリとモーリーを見 る 謝るモーリー その背後にアメリアがそっと顔 を見せる　アメリア、ニコニコ して		ミンチン「モーリー……」 モーリー「は、はい院長先生……」 ミンチン「お前の考え違いだったようですね」 モーリー「は、はい……申訳けございません……」 アメリア「お姉様……でもよかったじゃありま せんの、セーラさんが治って……」
74	気嫌をとるように無理な笑顔で 言うアメリア		アメリア「この学院から悪い病気が出たなんて 噂が立ったらそれこそ大変でしたもの…」

75	ミンチン振り向きざまたしなめる		ミンチン「アメリア！……」
76	アメリア「ビクッ」として黙り込む		アメリア「ウッ！」
77	焦立つミンチン　セーラに怒るミンチン		ミンチン「人騒せな！……お前のおかげでこの私がどれ程心配したか知ってるんですか…… 〜 お医者代だってバカにならなかったんですからね！」
78	ミンチン、セーラを睨みつけながら		
79	恐縮しているセーラ		セーラ「は、はい……」
80	セーラに言い切ってあごでセーラに合図するミンチン セーラ急いでドアの外へ　追いたてるように続くモーリー、ミンチン		ミンチン「判ってたらその分、働いてお返えし！」 セーラ「は、はい、院長先生！……」
81	裏屋根の上ラムダス　そーっと中をのぞいてほっとして身を引		S・E　（バタン）

	く		
82	一階廊下　振鈴を鳴らすアメリア		（カラン　カラン）←～～
83	地下食堂　皿にパンを置くセーラ		
84	皿にパンを配るセーラ　スープを注いでいくベッキー		
85	ドア開いてガヤガヤと入ってくるアーメンガード、ロッティたち　女生徒たち　セーラの方を見てハッとなる一同 駆け寄る二人　続く子供達		一同「ハッ!!」 ロッティ「セ、セーラママ……!」 アーメンガード「セーラ……!」
86	セーラに駆け寄るロッティ、アーメンガード　他の女生徒たちも駆け寄る		セーラ「ロッティ……アーメンガード……」
87	遅れてきたラビニア、ジェシー		

	ガートルート　セーラたちの方を見てガク然と止まる		三　人「あらっ！」
88	アーメンガードたちに囲まれているセーラ		アーメンガード「だけどセーラ……ムリしたりして、ほんとにもう病気はいいの？」
89	セーラ、ニッコリして答える		セーラ「ありがとう、アーメンガード、この通りよ……きっとあなたの叔母さまが作って下さったお薬が効いたんだと思うわ」
90	喜ぶ子供達		アーメンガード「よかった！」 ロッティ「わあい！　セーラママの病気が治ったーい！」
91	顔を見合わせるラビニア、ジェシー、ガートルート		
92	セーラのまわりを囲む一同 向こうのドア開いてミンチンとアメリアが入ってくる		女生徒たちのアドリブ「よかったわね……」等
93	ミンチン、セーラたちの方を見		←～～～

	て		ミンチン「何をしているんです！」
94	セーラたちはっとなる あわてて自分の席へ		一　同「ハッ！」
95	ラビニアたちも席に向かう		
96	ドルシラ、アーメンガード自席 へ座る		
97	ラビニア、ジェシー、ガートル ート座る		
98	ロッティたちは座っている		
99	座った一同　セーラ、ベッキー 立っている　ミンチン、セーラ に近づいてきて		ミンチン「セーラ……お前は仮病を使ってまで 仕事をなまけるような人間です。 ～ もう年少組にフランス語を教える必要 はありません。台所で働くんです！」
100	セーラなめ　ミンチンきっぱり と言い渡す		
101	暗然と立ち尽すセーラ		

102	ざわめく女生徒たち		生徒達　「（ささやき合う）←～～～
103	茫然となるアーメンガード		
104	ベッキー、ダイアナ、ジェニファ		
105	泣き顔のロッティ		ロッティ「うううう……」
106	顔を見合わせるラビニア、ジェシー、ガートルート		
107	セーラ、立ち尽くしている　歩く ラビニア、チラッと見る		
108	出て行くセーラ　ベッキー続く		
109	心配気なアメリア		
110	台所　モーリー、セーラを怒鳴り散らす		モーリー「全くお前のおかげでこっちまで院長先生にドヤされちまったよ！」
111	ジェームス、モーリー、セーラ		ジェームス「さぁ、もたもたしてねえで買出し

	ベッキー、セーラかごを取る モーリーびっくりして		に行って来るんだ！」 セーラ「はい、ジェームスさん」 ベッキー「あの、私も一緒に行って来ますです」 モーリー「なんだって？」
112	ベッキー説明する セーラ、ベッキーに		ベッキー「おじょうさまはまだ病み上りです、若し途中で倒れるような事があると心配で……」 セーラ「ベッキー……」
113	モーリー、セーラ、ベッキーに言い渡す		モーリー「フン、まだそんな事言ってんのかね、行きたけりゃ勝手におし。 〜 その代り、帰ったら二人とも、こっぴどくこき使ってやるから」
114	モーリーむきになって怒鳴る		
115	顔を見合わせるセーラ、ベッキー		
116	地下のドア開く　出てくるセーラ、ベッキー　手前の階段を上る		

117	学院正面　階段を上って道路へ出る二人　セーラふと立ち止まって隣りの家を見る		
118	ベッキーも立ち止まる　セーラの見ている方を見るベッキー		
119	セーラなめ　白いカーテンに閉ざされている隣家の居間		
120	二人見つめて　ベッキー心配そ		ベッキー「おじょうさま……また、お隣りの御主人の御病気を心配なすってるんですね」 セーラ「え？　……ええ……」
121	ベッキー微笑してセーラの肩に手をやって　セーラ頷くと歩き始める		ベッキー「大丈夫、きっといつか良くなられますよ、さ、参りましょう」
122	白いカーテン越しに歩いて行く二人		
123	ラムダス見ている		

124	クリスフォード　そばに犬がいる		
125	炉辺にクリスフォード ラムダス振り向いて		ラムダス「若しかすると、あの少女は御主人の好意と感づいてしまったのかも知れません、今もずっとこっちを見ておりましたから……賢い少女です」
126	クリスフォードなめのラムダス		
127	クリスフォード憮然と頷く		

〈前半・おわり〉

128	ある裏町の一角（ゴミや板きれなどがところどころにある） ピーターと誰からしい　落葉が散る　手前を荷馬車が通りすぎる		
129	煙突掃除の道具をかついだジムに頼んでいるピーター ※（ピーター上着を着ている）		ピーター「たのむよジム……云う通りにしてくれたら今度市場でヤサイを大まけしてやるからさあ」

	困った様子のジム　うしろにもたれて		ジム　「弱ったなァ、いくら友達でも素人を相棒にしたなんて判ったら親方にドヤされちまうからなァ」
130	ピーターにじり寄る　悪い気はしないジム その気になってくるジム		ピーター「大丈夫さ、黙ってりゃ判りゃしないよ、恩に着るぜ、ジム兄い」 ジム　「へへ、お前にそこまで云われたんじゃ断わる訳にも行かねえなァ。 〜
131	ジム身を乗り出して引き受ける		ようし、俺もロンドンッ子だ、引き受けたぜ」
132	ピーターニッコリして顔を上げる　帽子をくるりと回わし前へ出る		ピーター「ありがてぇこれで決まったな、ええとそうなったら……そろそろ……こうしてと……ちょいとごめんよ」
133	ピーター、ジムの服に手をこすりつけて、ススを自分の顔になでまわす		
134	まっ黒な顔になったピーター		
135	ピータ服にもススをこすりつけ		ジム　「おいおいピーターなにしてんだよ」

	る　ピーターおとぼけ調子で ジム笑う　ジム持ってたブラシ をピーターの顔にこすりつける		ピーター「なあに、仕事はじめのお化粧って奴さ」 ジム「ハハハ、よし、この方が早いぜ」
136A	ピーター　まっ黒けになる　目 パチパチ		
136B	笑う二人		ピーター・ジム「ハハハ……」
137	コベントガーデン市場 →PAN　花屋の前にセーラと ベッキー　花屋のおばさん心配 そうに		セーラの声「まあ……ではピーターは今日はお休みなんですか？」 花屋のおばさん「そうなんだよ、セーラさん…あんたが病気にかかったって聞いてからなんだかあの子すっかりおかしくなっちゃってさ」
138	驚く二人顔を見合わす		セーラ「まあ……」
139	おばさんセーラ達に説明する セーラたずねて おばさん「?!」となって		おばさん「とにかく、店番たのめばおつり間違えるし……」 セーラ「それでピーターは一体どこに……」 おばさん「さあ、どこへ行ったんだかねぇ……」

140	唖然と顔を見合わせるセーラ、ベッキー		
141	煙突からたち昇る煙　どんよりした空		
142	ミンチン女学院　ジムの背中にくっついているピーター		
143	地下の階段のところ　モーリーの前に道具を持ったジム、ピーター　ジム、モーリーにたのむ		モーリー「フン、あいにくだけど煙突掃除なら今、間に合ってるねぇ」 ジム「そんなこと言わないで掃除させて下さいよ、メイド頭さん……」
144	一生懸命説得しようとするジム		〜石炭の燃え方だって、グッと経済的になるんですから」
145	モーリー、二人を追い返えそうとする		モーリー「フン、そんな事、私の知った事かい…さお帰り」
146	ピーター慌てて		
147	ジムの背を突っつく		

148	ジム　ちょっと考えてから愛想良く		ジム　「あのそれじゃ料金を特別におまけしときますから……」
149	モーリー小言を言うように		モーリー「しつっこいわねぇ……そんな事してもらったって、私が一ペニーでも得するわけじゃないだろう」
150	ピーター、モーリーを小突く		
151	ジム愛想よく		ジム　「じゃ、お礼を払いますから」
152	モーリー、ハッとなってのり出す		モーリー「お礼だって？……そりゃ確かだろうね」
153	ピーターまたモーリーを小突く		
154	何度も頷き後のピーターもにっこりと叩頭する		ジム　「そりゃ、勿論ですとも、メイド頭さん」
155	モーリー顔がほころんでくる		モーリー「お礼かい……ハハ……判ったよ～
156	モーリー、二人に告げて		院長先生に話してくるからそこで待っといで」

	モーリー入って行く		ジム「へえ、どうも……」
157	白い歯を見せて笑うジム、ピーター		
158	ミンチン振り向く		ミンチン「なんですって？ ……子供の煙突掃除が……？」
159	ニコニコのモーリー ししゅうをしてたアメリア		モーリー「はい、院長先生、仲々よく働きそうな連中ですし、第一煙突を掃除しますとグッと石炭の燃え方が経済的になりますですから……」 アメリア「お姉様……ここ暫く、煙突掃除は倹約してましたし、
160	アメリア、ミンチンに告げる		〜 シーズン前にきれいにしておいた方がいいと思いますね」
161	ミンチン相手にせず　おそるおそる前に出るモーリー		モーリー「でも院長先生、特別料金と申しておりますんで……」 ミンチン「ま、いいでしょう……その代り、料金はもう一度値切るのですよ」

162	にっこりとするモーリー		モーリー「はい……院長先生……」
163	三階の廊下の突き当り　眠っているシーザー　目をさまし見る		S・E　（足音）
164	階段を昇ってくるモーリーにつづいてジムが		
165	昇ってく二人　つづいてピーターが昇ってくる		
166	ピーターあたりをうかがいながら歩く　↖FOLLOW		
167	モーリーくるりと振り返り立ち止るジム		モーリー「院長先生にはやっとの事で頼んであげたんだからね、それを忘れちゃ困るよ」
168	叩頭するジムの後に来て止るピーター		ジム　「へえ、判ってますとも……メイド頭さん……」
169	にっこりとして前へ歩き出すモーリー　続いてジムも行く　残		

	るピーター		
170	キョロキョロと盗み見るピーター		
171	奥へ行く二人　手前から小走りに追うピーター　扉を開けて入って行くモーリー　ジムを見送るシーザー		
172	シーザー、ピーターを見る　立ち上がり尾を振る		
173	歩いてくるピーターの方へ行くシーザー　シーザー、ピーターの足許をぐるぐる回る		ピーター「シ、シーザー……」 （ミャ〜　ミャウ）
174	ピーターの足許にまつわりつくシーザー		シーザー「ミャウ　ミャァ〜ウ」
175	ピーターあわてて		ピーター「シッ、シッ……黙ってろってば……」

176	階段の途中のモーリー、ジム	モーリー「どうしたんだいシーザー……？」
177	シーザーまつわりついている ピーター、ピョンと飛び上って 手前に走る　急いで扉を閉める	ピーター「な、なんでもないんです」
178	閉まる扉、追って来たシーザー 急ブレーキで止まる　怪げんな 顔で扉をみつめる	シーザー「ウニャオ……?!」
179	キョトンとする二人	モーリー「ん？……」
180	照れくさそうに上目使いに笑う ピーター	ピーター「えッへへへ……！」
181	ジム愛想よく笑い けげんな表情でー　上って行く モーリー　ピーターもin	ジム「……へへーネコに好かれるやつでして……」 モーリー「……ほう……」
182	大きく溜息をついて昇り出す	ピーター「フーッ」
183	屋根裏部屋の前　上ってくる三	

	人 モーリー戻って行く		モーリー「じゃ、この部屋の天窓から、煙突へ 行けるからね」 ジム「へい、判りました」 モーリー「しっかりたのむよ」
184	見送った二人　返事の良いジム 低い声で ピーター頭をかきかき ジム、ピーターにたずねる ピーター扉に近づいて		ジム「へい、へい… 危いところだったな」 ピーター「まいったよ、シーザーには」 ジム「お前の云うおじょうさんって……」 ピーター「ああ、この部屋で寝ている筈なんだ」
185	ドアの把手をにぎるピーター		
186A	一瞬、緊張するピーター　大きく呼吸して――		ピーター「スーッ」
186B	屋根裏部屋　ドアそっと開いて ピーター覗き見回す		ピーター「……お嬢さん……」
186C	ガランとした室内		
187	入って来るピーターとジム　唖然となる		

188	ベッドの傍に来てみるピーター	
189	茫然とベッドとエシリーを見つめるピーター　不安な表情　部屋を見回し机の方を見てアッとなる	ピーター「あっ」
190	机の方へ小走りに来て小馬オカリナ等をなつかしそうに見て微笑する　オカリナをとり上げてじっと考えこむピーター（不安になる）それを後で見ているジム	
191	振り返えるピーター　悲しげな表情である	
192	どうしたんだろう（と言った表情のジム――）悲し気な表情で振り返えりオカリナを見つめて大きく溜息をついて――オカリナを置く　一歩前に出るジム	ピーター「……まさか……慈善病院にでも……」 「ハー」 ジム「ピーター……とにかく仕事にかかろ

	力なく頷く		ピーター「あ……ああ……う……」
193	ピーター　間にジムはイスを机の上にのせ机を引く　飛びのり　イスにのり天窓を開ける ピーターもしかたなく机の方へ		
194	アオリ　天窓から外へ出るジム 続くピーター		
195	天窓から屋根に立つジム ジム軽やかに屋根を伝って行く ピーター反対側へ歩きかける		ジム　「じゃ、俺はこっちをやるから、お前はそっちの煙突をたのむぜ」 ピーター「ああ、任しといてくれ」
196	ピーター煙突の方を見つめている		
197	見た目の前方の屋根		
198	ピーターこわくて		ピーター「ウヘェ〜〜〜」

	こわごわと屋根を伝って行く		
199	屋根を伝って行くピーター		
200	こわごわと屋根の上を進むピーター向こうでジムは仕事をしている		ジム「おーい、ピーター大丈夫か」 ピーター「あ、ああ……」
201	屋根の上の二人　ロング		
202	こわごわと進むピーター		
203	ピーター　奥へ来て煙突に近づく　やっとたどりつくとよじ登るピーター		
204	昇り上り――　ほっとして見回すピーター		ピーター「フーッ！」
205	屋根の景色が見える　ＰＡＮ→		
206	下を見るピーター		

207	下が小さくなって見える フカン →PAN		
208	思わず眼をつぶり煙突にしがみつくピーター　気をとり直しておそるおそるワイヤーブラシの先を煙突に突っ込む　夢中でこすり始める		ピーター「ウェーッ　エッ!!」
219	ラビニアの部屋　暖炉前で菓子を食べているラビニア、ジェシー、ガートルート　突然吹き出すススの煙		
220	悲鳴をあげる三人		三　人「キャァ〜〜〜!!」
221	ピーター、ワイヤーブラシを引き抜くと隣りの煙突に突っ込む		
222	院長室　暖炉の傍で帳簿をめくっているミンチン　突如ワイヤーブラシの先端と共に吹き出すススの煙		ミンチン「プクッ……ア、アメリア、アメリア!」

223	ピーター引き抜いたワイヤーをお尻で回転して再に別の煙突口に突き入れる		
224	台所　のぞいているモーリー、ジェームス　顔を見合わせる二人　突然まっ黒なスス煙り		モーリー「おかしいねえ、こっちはまだなのかしら」 ジェームス「早く掃除させねぇと、夕食の支度が遅れちまうぜ」
225	煙にむせる二人 逃げる二人		ジェームス「プワッ!!」 モーリー「ペペペッ!」
226	ドアが開いて買物から帰ったセーラとベッキー入ってくる　驚いて立ち尽す		セーラ・ベッキー「あらっ!!」
227	二人なめのモーリー、ジェームス　暖炉から立ち昇るまっ黒な煙　気がつくモーリー小言を言う		モーリー「な、なんだよ、そんな所に突っ立って……帰ったら帰ったと」
228	セーラすぐさま返事する		セーラ「あ、すみません、ただ今帰りました」

229	まっ黒な二人服をはたくジェームス		モーリー「フン、今煙突掃除が来てるからね、屋根裏へ行って、も少し静かにやるように云って来とくれ」
230	返事するセーラ		セーラ「は、はい、モーリーさん」
231	三階廊下、上ってくるセーラ、ベッキー		
232	屋根裏部屋　ドア開いて入って来るセーラ、ベッキー　天窓を見上げる		
233	袋を落としてから天窓から降りてくるピーター、続いてジム		
234	見ているセーラとベッキー		ジム「いやぁ、すごいススだったぜ。 〜 どうだい、屋根の上はこわかったろ?」
235	ジム、ピーターにたずねてピーター無理して強気にニコニコと答える　ピーター、セーラたちに気がつく		ピーター「なーに、へっちゃら　へっちゃらスイスイ歩けたぜ、景色は最高だし…」

236	ピーター		ピーター「あ、おじょうさん！……」
237	おどろくセーラ、ベッキー		セーラ　「えっ……？」
238	ピーター飛び降り手前へ駆ける		
239	セーラおどろいて ピーター、セーラに近づく		セーラ　「あ、あなたは……？」 ピーター「オノですよ！　ピーターですよ！」
240	ピーターなめのセーラ　しげしげと見る		
241	ピーター		
242			セーラ　「まあ、ピーター……！」
243			ピーター「へ、へへへ…… 〜 オレ、おじょうさまの事が心配で…… でも良かった、元気になってくれたんですね！」
245	ジムも来る ピーター、ニコニコとして		

246	セーラもうれしそうに		セーラ「有難うピーター……あなたがベッキーと一緒に頂いてきたお薬のおかげよ」
247	喜ぶピーター		ピーター「うわぁ、〜やったぜ！」
248	跳び上って喜ぶピーター		
249	唖然としているベッキー		ベッキー「はあー」
250	ジム、キョトンとしている		
251	微笑んでいるセーラ		セーラ「フフッ」
252	夜　ミンチン女学院　次々と灯りが消え、クリスフォード家の居間だけ灯りが洩れている		
253	地下洗い場　皿を洗うセーラの手、ベッキーの手		
254A	洗う二人、モーリーとジェームスが顔を出す		モーリー「それじゃ、ススで汚れたものは、明日の朝までにチャンと洗い直しとくんだよ」

	返事するセーラ　去るモーリー ジェームス	セーラ「はい、モーリーさん」
254B		ベッキー「ウフッ……でも、おじょうさま、ピーターがあんな恰好で来るなんて、おどろきましたねェ」 セーラ「ほんとに、私も誰だか判らなかった位よ」
255	二人、声をしのばせて笑い合う	二　人「フフフフフ」
256	手燭が進む	
257	階段を登って行くセーラ、ベッキー	
258	踊り場上ってくる二人　ふと立ち止まる ベッキーたずねる	ベッキー「おじょうさま……」 セーラ「え……」 ベッキー「あの魔法は、もう消えてしまってますよね」
259	セーラと心配そうに	セーラ「さあ……消えてないといいのだけれど……」

	ベッキー神妙な顔つきになって セーラ、ベッキーをうながして 手前へ来るセーラ後くベッキー		ベッキー「いいえ、きっと消えてますです…… おばあちゃんだって言ってましたもの ……世の中、そう甘くはないって……」 セーラ「まあ……とにかく行ってきましょう」
260	前方T・U		
261	屋根裏　上ってくる二人　ハッ として立ち止まる		
262	二人なめ　ドア下から洩れてい る灯		
263	ベッキーおそるおそる セーラ手前へ		ベッキー「まあ、誰か来ているんですね」 セーラ「シィッ……」
264	ドアに近づくセーラ、ベッキー		
265	ドア開いて入ってくるセーラ、 ベッキー　啞然となる		
266	昨夜よりも更に豪華なテーブル		

	T・B　手前にセーラ、ベッキーが見守っている		
267	二人、一、二歩進む　暖炉には火が燃えている		
268	セーラうれしそうに話す ベッキー、セーラを見てニッコリする		セーラ「まあ、魔法は消えなかったんだわ…いえ、もっと立派に飾ってあるわ！」 ベッキー「おじょうさま……！」
269	ベッド　二人分の毛布　←PAN 二人分の美しい枕が並んでいる 遅れてベッキーがin		セーラ「見て、ベッキーあなたの分もあるわ」
270	ベッキーうっとりして		ベッキー「まあ、どうしましょう！」
271	テーブルに来るセーラ ベッキーも続いて近づく　うれしそうなベッキー		セーラ「ほら、食事も二人分よ！」 ベッキー「ほ、ほんとに！」
272	感動の二人 セーラ、ふと気がつく		二人「はあ」

273	本が置いてある　セーラの手取る		
274	セーラうれしそうに手元に寄せて開いて見る　ハッとなる		セーラ「まあ、本まで……」 セーラ「ハッ！」
275	本の見返えしにカードがはさまっている　T・U		セーラの声「屋根裏の少女へ、友より――」
276	セーラしばらく見ている　本を閉じる　天窓を見上げる		セーラⓂ「あの方だわ……きっとあの方の贈り物なんだわ」
277	天窓の外　一瞬窓から身をひくラムダス		
278	かくれるラムダス		
279	微笑むラムダス　F・O		

〈END〉